

所属・資格 地理学科・教授

申請者氏名 江口 誠一

研究課題		地域的な過去の景観復原
報告の概要	研究目的 および 研究概要	中国地方西部山口県内の地域的な植生変遷は、低地域で調査されていることが多く、台地上は調査例が少ない。データ集積としては、地域間を比較する上で不十分な状況である。そこで、局所的な植生復原に適した植物珪酸体分析によって、調査地を違えてデータを蓄積することで、その地域の特徴を捉えながら縄文時代以降の植生変遷を明らかにする。そして、他に産出する植物化石や動物化石の組成と比較することで、より詳細な古環境の復原を目指し、グローバルな中での位置づけを可能にする。具体的には、調査地の植生を始めとした環境調査を行い、地下の地層を解析した上で、層準ごとに含まれる植物珪酸体化石によって古植生を復原する。
	研究の結果	山口県中央部の秋吉台は、日本最大の面積をもつカルスト地域で、石灰岩台地上には多くのドリーネが分布している。そのほぼ全域で、ススキやネザサを主体とした草地景観が広がり、かつては有益な採草地として利用されてきた。それらは、観光などを目的とした年1回の火入れを維持し、現在も保たれている。本年度は、秋吉台上のドリーネ堆積物について、植物珪酸体分析をすべく、地層観察した上で試料採取した。とくに今回は秋吉台南西部に位置する「長登」地区のドリーネ底において、数地点のトレンチ掘削あるいは検土杖にて、深度1mほどの上位より約10cmごとに植物珪酸体分析用試料を採取した。層相は、下位より暗灰褐色細砂質シルト、褐色細砂質シルト、表層の暗褐色細砂質シルトと変化した。また、これと対比させる目的で、西オーストラリア・ダンピアにおいて堆積物の層相観察を行い、礫の散在する褐色シルト質細砂であることが確認された。
	研究の考察・反省	これまで同地域において行われた調査結果によると、深度40cmほどの堆積物より微細な炭化材が産出する傾向がある。その放射性炭素年代測定によると、中世から近世にかけての時代の物質とされている。しかし今回の調査地区は、古代以降の銅の採掘遺跡が隣接することから、さらに年代はさかのぼり古代にいたる可能性がある。それにともない以後計画されている植物珪酸体分析による古植生復原の結果にも影響がおよぶことが予想される。また、ブッシュファイヤーによる火の影響が植生におよぶ西オーストラリアでの今回の調査は、秋吉台のものと比較しながら進めることで、グローバルな視点での展開を心がけていく予定である。
研究発表 学会名 発表テーマ 年月日/場所	研究発表 学会名 発表テーマ 年月日/場所	研究発表 日本文化財科学会、特別天然記念物秋吉台におけるドリーネ堆積物中の植物珪酸体化石群と炭化物の年代、30年7月7日、奈良女子大学。 日本地理学会、タイ王国内における熱帯季節林下の植物珪酸体からみた古植生復原、30年9月22日、和歌山大学。 日本植生史学会、秋吉台地域に残存する常緑広葉樹林と地下より産出した植物珪酸体化石群、30年11月11日、滋賀県立琵琶湖博物館。
研究成果物 テーマ 誌名 巻・号 発行年月日 発行所・者	研究成果物 テーマ 誌名 巻・号 発行年月日 発行所・者	研究成果物 秋吉台の火入れと植生、植生史研究、27巻、30年6月30日、日本植生史学会。 秋吉台北部における大シブリ・ドリーネ堆積物中の植物珪酸体からみた植生変遷—特に草地景観の成立時期について—、植生史研究、27巻、30年6月30日、日本植生史学会。 東京大学千葉演習林の林内に残る炭窯跡の実態、東京大学農学部演習林報告、139巻、平成30年。